

日本労働年鑑 第26集 1954年版

The Labour Year Book of Japan 1954

第二部 労働運動

第二編 労働組合運動

第七章 主要な労働組合の現状

E、化学産業

現状は、化学産業の中で現在最も大きい組織をもつ合成化学労連が従来、ソーダ、染料、火薬、薬品などに分れていたのを中産別形態で統一してから、一般化学、合成化学、窯業と三部門に分類されているが、総評外では必ずしもこうした組織方針によってはいないから、今後の発展の中で、この分類方式も変って行くものと考えられる。

20、大化学産業労働組合(大化学)

The Chemical Workers' Federation of Japan.(C.W.F.J.)

港区芝新橋七ノ一 芝(43)三一〇五

役員

中央執行委員長 亀田東伍

結成 一九四九年八月一九日

加盟機関 世界労連、化学インター

機関紙 「化学労働旬報」旬刊、「化学労働者」

21、全化学産業労働合同盟(新化学)

港区芝公園六号地 芝(43)一一三二

役員(第三回大会決定)

執行委員長 長沢一末(昭電鹿瀬)

副執行委員長 宇佐美茂彦(鉄興社)

書記長 為国 昭(徳山曹達)

結成 一九五〇年九月二七日

加盟機関 新産別

22、全国化学労働組合同盟(全国化学)

港区三田四国町二ノ六 三田(45)五七五九

役員

会長 村尾重雄(大阪)

結成 一九五一年一月一八日

加盟機関 総同盟

【a、一般化学】

化学同盟は、ゴム労連、旧総同盟全国化学などが中心になって結成されたが、その主旨によれば一般化学業種として、ゴム、油脂、紙パルプ、皮革、電池、セルロイド、石油、塗料などのほか、ガラス、医料薬品、窯業まで含めている。

23、化学産業労働組合同盟(化学同盟)

豊島区高田町二ノ二五 九段(33)三六一九

役員(六月大会決定)

中央執行委員長 山花秀雄

中央執行副委員長 藤木用輔

書記長 木村 清

若宮光三

結成 一九五一年六月一七日

加盟機関 総評

活動 六月二五—二六日 全国大会。

I 紙パルプ

24、全国紙パルプ産業労働組合連合会(紙パ労連)

新宿区下落合一ノ三三〇 落合(95)五九五八

役員(第九回大会決定)

中央執行委員長 山内義衛(王子)

中央執行副委員長 和田四郎(山陽)

書記長 石川彦三郎(本州)

結成 一九四八年七月三日

活動

二月二八日—三月一日 一五中委、春季共闘方針決定。

七月七—九日 第九回定期大会(静岡)。

九月八—九日 一七緊急中委。

十一月一—三—一五日 第一〇回臨時大会、総評加入を決定。

機関紙「紙パ労連ニュース」旬刊、「調査資料」

II 石油・石炭加工

25、全石油産業労働組合協議会(全石労)

千代田区丸ノ内三ノ一〇 日本石油内 千代田(27)七二七一

役員

委員長 浅野正三

結成 一九四七年四月一日

機関紙「全石油」旬刊

26、全国瓦斯労働組合連合会(全国ガス)

港区芝海岸通り一ノ一五 芝(43)一一一一—九

役員(第八回大会決定)

中央執行委員長 林 俊平(東京)

中央副執行委員長 高瀬菊四郎(東邦)

小林邦雄(広島)

書記長 小林健一郎(東京)

結成 一九四六年一月二日

活動

五月一九—二〇日 第八回年次大会。

六月二五—二六日 二中委。

九月一〇—一一日 三中委。

機関紙「全国瓦斯労働」

III その他

27、全日本塩業労働組合総連合(塩業労連)

岡山市四番町

役員

中央執行委員長 小山武次

【b、合成化学】

28、合成化学産業労働組合(合化労連)

Japanese Federation of Synthetic Chemistry Workers Union.(J.S.C.U.)

港区本芝三ノ二〇 三田(45)五七〇〇、五七三〇

役員(第四回大会決定)

執行委員長 太田 薫

副執行委員長 入江正治

書記長 香森 現

結成 一九五〇年一二月九日

加盟機関 総評

活動

一月三—二日 第三回臨時大会、スト権中央委議。

六月二三—二六日 第四回定期大会、国際自由労連加盟を否決。

機関紙「合成化学」週刊

【c、窯業】

29、全国セメント労働組合連合会(全国セメント)

港区芝新橋六ノ一八 芝(43)三二四〇

役員

委員長 清水道男

結成 一九五一年四月二七日

機関紙「全国セメント」旬刊

■←前のページ 日本労働年鑑 1954年版(第26集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
